

<熱傷（やけど）>

【やけど（熱傷）とは？】

やけど、（専門用語では『熱傷（ねっしょう）』といいます）は熱湯や蒸気、熱した油、アイロン、火など熱いものに皮膚が触れることで皮膚が損傷された状態です。

熱傷の深さはⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度と3つに分類されます。

1、Ⅰ度熱傷

皮膚が赤くなる程度のやけどです。通常3～4日程度で赤みが減少し、やけどの跡を残すことなく治ります。『日焼け』は『Ⅰ度のやけど』です。

2、Ⅱ度熱傷

皮膚に水泡（水ぶくれ）を生じる中間の深さのやけどです。Ⅱ度の熱傷は治りが早い「浅いⅡ度熱傷」と、治りが遅い「深いⅡ度熱傷」に分けられます。

3、Ⅲ度熱傷

一番深いやけどであり、皮膚は硬く、黄白色となります。やけどが治ったあともケロイド（肥厚性瘢痕）などの傷跡が残ります。

【治療】

やけどをした場合、まずきれいな水（水道水やミネラルウォーター）で洗淨し、きれいな水で湿らした布やタオルでやけどを冷やしてなるべく早く病院に来て下さい。痛みが強い時には、その上から軽く冷却して下さい。ただし冷やし過ぎに注意して下さい。

治療は熱傷の深さによって異なります。

- ①『Ⅰ度熱傷』は軟膏療法を行います。3～4日で赤みや痛みが消失してきます。色素沈着を生じる場合がありますが瘢痕（創跡）としては残りません。
- ②『Ⅱ度熱傷』は、「浅いⅡ度熱傷」と「深いⅡ度熱傷」を判断して治療を行う必要があります。

「浅いⅡ度熱傷」の場合は軟膏療法や被覆材を用いた保存的治療を行います。新しい皮膚が再生するまで2週間前後かかります。色素沈着や色素脱出（白くなる）を生じる場合がありますがほとんど瘢痕（創跡）としては残りません。

「深いⅡ度熱傷」の場合は、3週間しても新しい皮膚の再生は悪く、なかなか

治りません。範囲が小さければ軟膏療法を続けますが、手術を行わなければならない場合があります。

③『Ⅲ度熱傷』は、軟膏療法では皮膚の再生が得られず手術が必要になります。

【やけどの後遺症】

Ⅱ度の深いやけどやⅢ度のやけどでは瘢痕（創跡）が残ります。さらに創跡の盛り上がり（肥厚性瘢痕・ケロイド）や傷跡のひきつれ（瘢痕拘縮）を生じ、指や手足の機能障害を伴うことがあります。やけどが治った後も、継続して、紫外線を防ぐ治療、傷痕（きずあと、瘢痕、ケロイド）の治療が必要となります。

【やけどの重症化】

やけどの範囲が広い場合は命に関わることもあり、専門的な集中治療が必要になります。さらにやけどの創に感染（化膿）をおこすと、細菌が体内に侵入し、菌の毒素のために熱が出たり、熱傷創が深くなるなど、重症化します。また初期に適切な治療が行われないと、治るのに時間がかかり、傷痕が目立ってしまうことがあります。

やけどを受傷した場合、軽いので大丈夫と思わず、専門医のいる病院での治療をおすすめします。